

エコライフフェア 報告書

2005.07.12

きんき環境館（近畿環境パートナーシップオフィス）

< 目次 >

1 . 開催の主旨	2
2 . 準備会の開催	2
3 . 広報活動	3
4 . 展示	4
5 . イベント	5
6 . 来館者	6
7 . 会計	7
8 . 参加団体からの声	7
9 . 今後に向けて	9
巻末資料 1 準備会配布資料	1 1
巻末資料 2 エコライフフェアチラシ	1 4
巻末資料 3 会計報告	1 6

1. 開催の主旨

環境省は「我が家の環境大臣事業」において、環境保全に関する取組の活性化の支援をするため、楽しいエコライフに関する情報の提供や家庭でできる環境教育教材の提供、地域イベントの開催などを行うとしています。そのキックオフイベントを6月11日(土)12日(日)の「エコライフ・フェア2005」(東京都立代々木公園)で行うこととなりました。きんき環境館では環境省近畿地区環境対策調査官事務所(以下、「近畿事務所」とする)と協議の上、キックオフイベントの同日からきんき環境館でエコライフフェアを開催することにより、近畿地域でもエコライフや「我が家の環境大臣事業」をPRし、促進の一助とするという主旨です。

なお、エコライフとは、「環境に配慮した生活」という意味で、その範囲はかなり広くとらえ、環境月間にエコライフの推進という身近なテーマを取り上げることで、多くの人に環境問題の啓発をするとともに、きんき環境館の周知も兼ねることとします。

2. 開催概要

まずは、エコライフフェアの開催に伴ったスケジュールを報告します。その上で、事前に開催したエコライフフェア準備会(以下、「準備会」とする)についても説明しています。

2.1 開催スケジュール

エコライフフェアは表1のようなスケジュールで、準備・開催・終了しました。

表1 エコライフフェアスケジュール

日付	内容	備考
5月10日(火)	参加団体募集	
5月11日(水)	開催期間決定	
5月21日(土)	準備会の開催	
5月24日(火)	募集による参加団体確定	
5月25日(水)	大阪府循環型社会推進室へ参加依頼	
5月28日(土)	チラシ完成・発送開始	約280枚
6月2日(木)~3日(金)	チラシ発送	約2500枚
6月8日(水)	チラシの設置(大阪市営地下鉄)	約6300枚
6月8日(水)	参加団体搬入・設置開始	
6月11日(土)	エコライフフェアスタート	
6月25日(土)	エコライフフェアイベント	最終日
6月29日(水)	参加団体搬出終了	

きんき環境館での展示企画のため、参加団体はきんき環境館のパートナーシップ団体(当時約40団体)の中から募集し、きんき環境館の運營業務を行っている特定非営利活動法人

大阪府民環境会議（以下、「OPEN」とする）が運営協力するとしました。その後、「我が家の環境大臣事業」のキックオフイベントが確定したのを受け、開催期間を決定し、正式名称を「エコライフフェア」としました。5月24日（火）までに以下の7団体が参加を希望しました（表2参照）。

表2 参加を希望したパートナーシップ団体

団体名	準備会	イベント
ふるしき研究会	参加	参加
（特活）総合教育研究所		
（特活）とよなか市民環境会議アジェンダ21	参加	参加
（特活）地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）	参加	参加
（特活）里山倶楽部		
（特活）リサイクル活動機構かどま	参加	参加
せいわエコ・サポーターズクラブ		参加

（団体名は順不同、イベント参加団体の内容は表4参照）

2.2 準備会の開催

5月21日（土）に準備会を開催し、4団体5人（表2参照）が参加しました。準備会では、参加者による自己紹介と団体紹介の後、きんき環境館より開催に関する説明をしました（詳しくは巻末資料1を参照）。また、エコライフの内容については、参加団体の考えるエコライフを紹介してもらい、その範囲は広くとらえるものとする説明しました。その後、期間中のイベント開催について参加団体と協議し、準備会に参加した4団体すべてのイベント参加と、開催日を6月25日（土）とすることが決定しました。あわせて、各団体の展示場所については、きんき環境館に一任することとなりました。

なお、準備会の時点で参加保留となっていた1団体がイベントへの参加も希望したため、イベントは5団体となりました。また、近畿事務所の提案により、大阪府環境農林水産部循環型社会推進室から大阪府認定リサイクル製品の展示も行うこととなりました。

3. 広報活動

エコライフフェアの広報は、主にチラシ（巻末資料2参照）の配布によるものとWeb（メールやインターネット）を活用したものの2通りの方法で行いました。

3.1 広報チラシ

チラシは、準備会終了後1週間をめぐりに、イベント参加団体からイベントの内容を提出してもらい、それを入れたチラシを作成しました。チラシは約3500枚印刷し、きんき環境館の別事業の郵送に同封することを中心に、5月28日（土）、6月2日（木）～3日（金）にかけて、表3のように郵送で広報しました。

表3 チラシ郵送先

拠点施設	69 カ所	約 300 枚
自治体	319 カ所	約 960 枚
NGO / NPO 関係	261 カ所	約 1060 枚
企業	126 カ所	約 250 枚
大学関係	58 カ所	約 110 枚
その他	38 カ所	約 120 枚
合計	871 カ所	約 2800 枚

表4 チラシ配布・設置先

月日	配布イベント・設置先	枚数
6月6日(月)	環境モニター会議	60枚
6月8日(水)	大阪市営地下鉄(27駅)	6300枚
6月17日(金)	生活情報プラザ	50枚
6月18日(土)	環境を考える府民の集い	200枚
6月20日(月)	環境を考える府民の集い	150枚

また、表4のようにチラシを配布・設置しました。特に、大阪市営地下鉄の27駅には近畿事務所主催の「きんき環境展 in 大阪」と内容を両面にした特別用のチラシを印刷し、設置しました。その他として、きんき環境館ではチラシ完成以降、最終日まで設置し、イベント当日には残部のチラシを利用して、OMMビルの連絡通路で呼び込みを行いました。

3.2 Web

Webを活用した広報について、きんき環境館のホームページでは複数カ所に掲載しました。参加団体にも準備会で広報を依頼したところ、複数の参加団体のホームページにて、エコライフフェアへの参加予定の旨や当サイトの関連ページへのリンクの掲載などの対応がありました。メールでは、地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)が発行しているメールマガジン「めるまが」(6月16日発行分、約2500部)への投稿や、OPENの関係団体へメールによる呼びかけなどを行いました。

4. 展示

展示スペースは環境BOXに設置しているパネルの上段と中段の3枚ずつ、あわせて計6枚と、6枚のパネルの前に設置したテーブル1本(180cm×60cm)を基本とすることを準備会で決定しました。パネルについては、大型プリンターを利用してパネルサイズ用の紙を出力する方法や、既存のパネル等を利用する方法など、自由に選択できるようにしました。その結果、3団体が大型プリンターによるパネル出力を行い、2団体が既存のパネルを設置し、2団体が写真やチラシをパネルに入れた形となりました。また、パートナーシップ団体の展示で環境BOXのパネルスペースが埋まってしまったため、近畿事務所と大阪府の

循環型社会推進室によるリサイクル認定製品の展示は 2 枚のパネルボードなどで行いました。なお、エコライフフェアの期間中は、普段と違うことがわかるように、廊下側のガラス面にエコライフフェアの横断幕（3 枚）とパネル（2 枚）を設置しました。展示のようすは写真 1～写真 4 です。



写真 1 廊下からの様子



写真 2 入り口向かって左側の展示



写真 3 入り口向かって右側の展示



写真 4 大阪府リサイクル認定製品の展示

5 . イベント

エコライフフェアの最終日はエコライフに関連したイベントを開催しました。イベントには展示している 5 団体が参加し、各団体のスペースは前もって聞いておいた希望に即して配置しました。

スペース等を考慮し、イベントは時間差をつけて開催することとしました。結果的に、時間差をつけたことで、当日は午前中から来館者があったこと、野菜を購入した人がその後他のイベントに参加するなどの光景が見られました。来館者と参加団体のスタッフは長時間に渡ってコミュニケーションをとることが多く、イベント当日は来館者が途切れることがありませんでした（表 5 参照）。

表5 イベント内容

団体名	イベント内容
11時～14時	
せいわエコ・サポーターズクラブ	環境にやさしい商品の即売（有機野菜など）
13時～16時	
ふるしき研究会	楽しいふるしき体験
リサイクル活動機構かどま	リサイクル工房・裂き折り工房（工作など）
地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）	Web版環境家計簿の体験 ラクに大きく省エネする方法
とよなか市民環境会議アジェンダ21	環境家計簿のつけ方・考え方

また、イベントに参加した各団体のスタッフが即売商品（有機野菜）を購入したり、共に環境家計簿をテーマとした地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）と、とよなか市民環境会議アジェンダ21のスタッフが情報交換を行うなど、団体間での交流もありました。イベントの様子は、写真5～写真6をご覧ください。



写真5 有機野菜の即売の様子



写真6 リサイクル工房の様子

6. 来館者

期間中のエコライフフェア来館者数は表6の通りです。11日（土）は、きんき環境館のスペース利用（講座の開催）があったため、参加した多くの方が展示を見て回られました。そのほかの日については、チラシを見て来られた人、通りすがりに立ち寄った人など様々でした。また、チラシを見た大学の先生と学生と一緒に来られたり、駅に配架したチラシを見て来られた人も数人いました。

来館者は25日（土）イベント当日が一番多く、52人でした。このうち17名は参加団体のスタッフです。展示のみの日でも1日平均10名以上の方が来館されたことは、通常のきんき環境館の来館者よりもかなり多い人数となっています。ちなみに、2週にわたって開催しましたが、曜日における傾向は見られませんでした。

表6 エコライフフェア来館者人数

日(曜日)	11日(土)	14日(火)	15日(水)	16日(木)	17日(金)	18日(土)
来館者数	25人	8人	3人	12人	11人	5人
日(曜日)	21日(火)	22日(水)	23日(木)	24日(金)	25日(土)	合計
来館者数	8人	15人	7人	21人	52人	167人

7. 会計

エコライフフェアの開催費用は、運営協力した OPEN から近畿事務所への見積もりに基づき、20万円で行いました。なお、費用の約8割を参加団体へのパネル出展料やイベントの謝金とし、残り2割を開催業務等に充てました(巻末資料3参照)。

8. 参加団体からの声

エコライフフェア終了後、参加したパートナーシップ団体へ感想をお願いしたところ、7団体中5団体から回答があり、様々な意見が寄せられました。今回はメール、またはFAXによる自由記述形式とし、今回の開催を次回以降の参考とするために、思ったままのことを自由に書いてもらいました。以下が意見です。良かったこと、悪かったこと、次回以降の開催に向けて、の3つに分けています。なお、報告書に記載する関係上、どの団体の意見をわからないようにした上で、同内容の意見はまとめ、文末の表現をそろえました。

8.1 よかったところ

- ・限られた事業予算、展開スペースのなか、成功と言えるのではないのでしょうか。
- ・動員数も期間中160名以上の方が来館されたことは、その数字の評価は別れるかもしれませんが、よく来て頂いた、と思っています。
- ・25日のイベントは参加団体間での交流ができ、また、丁寧な連絡、準備や片付け期間のゆとりのおかげで、無理なく楽しく参加させていただくことができました。
- ・緩やかな交流を促進する場としては適当な会場だと思いました。機材に関しても充実を感じますしスタッフ対応も悪くありませんでした。
- ・パネル(ボックス用パネル)を準備いただき、展示作成経費をいただけたこと、ありがたかったです。収益事業をしていない団体ですので、人や物品の移動経費だけでも負担になっています。今回活動に踏み切れたのも、展示準備金を活用できたからです。
- ・環境に関わる団体に共通する悩みは、団体を維持運営していく為の財政的な基盤の弱さです。運営スタッフとしてサポートしていただく時、いわゆる「無償のボランティア」をお願いすることはしていません。必ず「有償ボランティア」として依頼しています。今回、参加費用の一部とは言え、補填があったことは助かりました。(もっと予算をとってもらえればなお幸いです)
- ・今回参加致しましたひとつの目的は、運営スタッフへの機会づくりの意味もあります。

このような機会に会員の方々が積極的に地域の催事に参加されることは非常に良い経験になるでしょう。

8.2 悪かったところ

- ・一般の参加者が少なかったことです。PR 不足とともに他のイベントとの重複も原因であったように思います。
- ・25日に訪れた際、参加者が多いと初めは思いました。しかし、それは各団体の関連者と思われる人のようでした。もったいない時間でした。その場にいる団体との交流時間をとり意見交換をする、なにをしている団体かを知る、その他いろいろのものがそこからうまれます。スタッフの方々はそれを積極的にコーディネーターして充実した時間帯をうみだすよう配慮が必要かと思いました。
- ・「エコライフフェア」というテーマ性が十分に生かされていなかった感じではあります。もっと、テーマに沿った各団体の考え方を出示していただきたかった。
- ・(イベントに参加していない出展団体の人にも) できたら会いたかったです。せっかく、展示したりしてフェアにしたのですから、出会いの機会ができるよう、それぞれのグループが顔をだすなり交流できる場にしてください。
- ・事前に、どんなグループがどんなことをやっているのかなどわかっていたら、より積極的に交流の機会をもとめていたかも知れません。
- ・欲を言えば、展示枠が特殊なために展示物の作成には苦勞をしました。
- ・環境省の出先機関としての役割をどう組み込むか。COP3 が批准した今だからこそ、環境省自身の立場、考え、課題、世界の動向等、行動につなぐ提案があってもいいのではと思いました。

8.3 次回以降の開催に向けて

- ・情報交換や団体相互の交流などにも視点を向けるような企画も今後お願いいたします。
- ・きんき環境館の狭さを活かす。大きな会場で有名な先生が高邁な講演をされ、沢山の入場者を動員されるのもいいことではありますが、きんき環境館には似合いそうにありません。きんき環境館に相応しいミニ催事を繰り返し継続して開催されるのが良いのではないのでしょうか。
- ・無理に動員を掛けても次に来てもらえませんし、「集める」ことには限界があります。人が「集まる」ような企画、媒体が取り上げてくれそうな企画・テーマ設定が必要になるでしょう。
- ・きんき環境館の催事やそこに集う団体も含め、常に時代を見詰める目が必要です。催事コンセプトの時代性(賞味期限)を考え、市場分析をし、リピーターを増やすことが大切だと思います。「きんき環境館に来て良かった、楽しかった」「知らなかったことを知った」「また友達と一緒に来たい」という来館者の声をたくさん聞きたいと思います。
- ・他機関との共催もよいのではないのでしょうか。例えば「関西消費者協会」では、「環境」は重要テーマの一つとされておられます。今回のエコ商品の紹介活動は「グリーンコンシューマーへのお誘い活動」であり、「生活情報プラザ」で行っても違和感のないものだったと思っています。
- ・今回の企画を常設展など日常的な展示や催しとリンクさせるのもよいと思います。次年

度「エコライフフェア」の企画会にパートナーシップ団体の参加を呼びかけて、多様なアイデアをくみ上げたらいかがでしょうか。毎年、同じようなものではなく、「芸術的パフォーマンス」、「近畿の伝統的暮らしの紹介」などテーマ性があるのもよいのではないのでしょうか。

- ・貴館の活動（パートナーシップ事業）が発展されるに連れ、年間事業の集大成としてのイベントになっていってもいいのではないのでしょうか。
- ・OMMの5階という場所ですから、人が来ないのは初めから承知していました。でもエレベーターの前とか、エレベーター内にA4のチラシとかで、イベントの案内が出せないのでしょうか。仰々しいものでなくても、いいのですから。環境省近畿事務所の顔でもビル管理者と折衝してもらって、あるいは直接交渉することをおねがいします。

9. 今後に向けて

エコライフフェアはきんき環境館での初めての企画展示となりました。エコライフフェアが終了し、今回の経験や参加団体からの意見を踏まえつつ、次回以降の開催へ向けて、テーマごとに方向性を示します。

広報と来館者数

前述のように、今回は3500枚のチラシ配布（一部設置）と6300枚の地下鉄へのチラシ設置を主に行いましたが、来館者数が約160名（イベントのスタッフ含む）という結果となりました。通りがかりに来館した方もいますので、チラシ枚数に対する来館者数はもっと少ない人数といえます。一方、イベント当日は地下鉄の連絡通路にて呼び込みを行いました。それによりある程度の人に来館してもらえました。今後は一層効果がある方法を検討しながら、広報活動を行っていく必要があるでしょう。その点では、参加団体からの意見にもあったように、OMMビル1階の「生活情報プラザ」と共同開催することや、OMMビル内にも展示をしていることを広く宣伝できるようにすることなどを検討していく必要があると考えます。

展示について

今回は環境BOXに設置のパネルを利用した展示が主でした。前述したように、参加団体は各団体の都合や工夫により、様々な方法で展示されていました。これについては、きんき環境館で想定していた以外の方法もありました。そのため、今後も準備会を通してパネルの説明を行い、自由な形で展示してもらいたいと考えます。一方、パネルの前に設置したテーブルは団体によって利用頻度に差があり、今後はテーブルの活用の仕方も含めて、準備会等で説明していきたいと思えます。展示場所の割り当てでは、電源の使用の有無など、展示内容などを踏まえて配置するなど、今回よりきめ細やかな対応をしていく必要があるでしょう。また、今回は7団体の参加であったため、館内の両側の展示が主で、来館した方の滞在短いということもありました。次回以降は参加団体を増やすことで展示スペース（展示の量）を拡大し、より充実した展示にしていく必要があると考えます。

イベントについて

今回は同時に5団体がイベントを行うことができました。スペース的にかなりギリギリでテーブル間の移動が少し苦しいくらいでしたが、人と人の距離が近く、小規模ながらアウトホームなイベントとなりました。次回以降は展示スペースとも検討しながら、適切な参加団体の数や出展規模の把握、スペースのより効率的な利用の方法を考えていく必要があるでしょう。また、今回は有機野菜の即売に関する関心の割合が高く、非常に人気がありました。次回以降も、即売等を入れ込むことが有効といえるでしょう。また、申込や予約などもない自由に来館してもらう方式のため、当日の来館者数が未知数であったこともあり、より確実に来館してもらえよう魅力作りが必要となります。

開催内容について

今回は開催主旨にあるように、「我が家の環境大臣事業」とエコライフの紹介でしたが、パートナーシップ団体に限ったとしても活動内容は多様なため、今後は全く異なったテーマでも開催していきたいと考えます。その上で、人が呼び込めるような大きなイベントを行うのか、あるいは、今回のような小規模でありながらも地道な開催を行っていくのかは検討していく必要があります。ただ、きんき環境館の展示やイベントを通して、「参加団体と来館者」、「きんき環境館と参加団体」、「参加団体同士」の交流が促進されることを重視していくべきでしょう。その上で、「生活情報プラザ」や近畿事務所など、複数の場所を利用した同時開催などの可能性についても追及していきたいと考えます。

まとめにかえて

今回の開催が成功であったか否かについて、来館者数などから意見は分かれるところかもしれませんが、今回の来館者数や参加団体の意見は、きんき環境館のあり方に直結する点でもあり、これらのことを新たに得られたのは決して無駄ではありません。今後はきんき環境館のあり方を絶えず考え、エコライフフェアなどを発信方法の1つと理解し、より効果的な展開と連携させていきます。

2005年5月21日(土)

エコライフフェア準備会

環境省 きんき環境館

- ・開催名称：「エコライフフェア」
- ・開催期間：2005年6月11日(土)～25日(土)10:00～19:00
(ただし、12日(日)、13日(月)、19日(日)、20日(月)を除く)
- ・開催場所：きんき環境館
- ・内容： エコライフに関する展示(開催期間全般)
エコライフに関するイベント企画(上記期間のうち1日程度)
- ・費用：交通費(実費)と展示にかかる経費(パネル出力代等)は負担します。
- ・主催：環境省近畿地区環境対策調査官事務所、きんき環境館
- ・運営協力：特定非営利活動法人 大阪府民環境会議(OPEN)
- ・参加団体(順不同)：(特活)総合教育研究所
ふるしき研究会
(特活)とよなか市民環境会議アジェンダ21
(特活)地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
(特活)里山倶楽部
(特活)リサイクル活動機構かどま
せいわエコ・サポーターズクラブ(予定)
大阪府農林水産部循環型社会推進室(予定)
- ・問い合わせ：きんき環境館(担当：廣田)
TEL：06-6940-2001 FAX：06-6940-2022
E-Mail：office@kankyokan.jp

内容

- ・エコライフに関する各団体の取り組みなどを展示紹介。
- ・エコグッズなどの展示紹介。
- ・エコライフに関するイベントの開催。

広報について

- ・きんき環境館のホームページで掲載します。
- ・ポスターを作成し、きんき環境館の廊下側等に設置します。
- ・チラシを作成し、パートナーシップ団体等に配布します。
(出展団体にもお渡ししますので、団体からも配布してください。)
- ・きんき環境館主催の新エネルギーシンポジウム(6月27日)の郵送案内に同封します。
- ・出展団体で出展することなどを独自に宣伝してください。

展示スペース

- ・館内両側のパネル。(上の段と真ん中の段の計48枚を予定)
- ・両側のパネルの前にはテーブルを設置。
- ・パネルボード2枚の両面に既存のパネルを設置することもできます。
- ・団体ごとのスペースは準備会当日に相談して行いますが、各団体ともできる限り両側のパネルを利用して展示してください。

パネルについて

- ・パネル出力：両側のパネル出力はきんき環境館で行うこともできます。
出力については下記の値段となります。
- ・パネルサイズ 大：たて632mm×よこ558mm(出力：¥300-)
小：たて587mm×よこ558mm(出力：¥300-)

<参考>

A1サイズ：たて841mm×よこ594mm

A2サイズ：たて594mm×よこ420mm

B2サイズ：たて728mm×よこ515mm

展示の搬入・搬出

- ・搬入：エコライフフェアで展示するパネル、物品等はきんき環境館の開館中（火～土の10：00～19：00）であれば事前持ち込みも可能です。
- ・設置：以下の日時のうち、ご都合のいい時間に設置しに来てください。
 - 6月8日（水）13：00～19：00
 - 9日（木）10：30～19：00
 - 10日（金）10：30～19：00
- ・搬出：以下の日時のうち、ご都合のいい時間に搬出しに来てください。
ただし、スペース利用等の関係により、こちらで事前に展示物を取り外すことがあります。
 - 6月28日（火）10：30～19：00
 - 29日（水）10：30～19：00
 - 30日（木）10：30～13：00

イベント企画

- ・エコライフフェアのうち1日（午後）、エコライフに関するイベント企画を行います。
1団体が何かを企画して行うか、あるいは、いくつかの団体による合同企画（ブース出展等）になるかは、準備会で希望団体による相談です。
日程は特別の希望がなければ、6月18日（土）または25日（土）とします。
- ・イベント企画の準備は開催当日の午前に行ってください。

費用の支払い

- ・展示 制作費：¥17,000 - （パネル制作費、交通費込み）
- ・イベント予算 謝金：¥40,000 - （1団体の上限は¥20,000 - ）

- * 3団体以上がイベントをする場合は、要相談です。
- * 費用は展示片付け時にお支払いします（イベントの謝金も同様）ので、片付け時には担当者（受け取られる方）の印鑑をご持参ください。

環境省 きんき環境館

エコライフフェア

今日からはじめるエコライフ

環境に配慮した生活が大事だと思いつつも、なかなか始められない、続かない……。そんなことはありませんか？
環境に配慮した活動をしている団体がエコライフに役立ついろんな紹介をします。
来て・見て・体験して、今日からエコライフな生活を始めるきっかけにしませんか

展示 6月11日(土)～25日(土)(日・月は休み)

エコライフに関する各団体の
取組の紹介

エコ商品の紹介

「我が家の環境
大臣事業」の紹介

大阪府認定リサイクル
製品の紹介

イベント

6月25日(土)

< 11～14時 >

環境にやさしい商品の即売(有機野菜、竹炭、トイレトペーパーなど)

< 13～16時 >

楽しいふるしき体験「ふるしきは地球となかよし」

リサイクル工作・裂き折り工房(名刺入れ、バスケット、焼き絵など)

環境家計簿のつけ方・考え方、Web版環境家計簿の体験

(電気・ガス・水道などの領収書があればご持参ください)

ラクに大きく省エネする方法～賢い省エネ家電の選び方～

などを予定

会場「きんき環境館」(OMMビル5F) 入場無料

お気軽に「きんき環境館」へお越しください

< エコライフフェア詳細 >

日 時 : 2005年6月11日(土) ~ 25日(土)

10:00 ~ 19:00 (最終日は16:00まで)
(12日(日) 13日(月) 19日(日) 20日(月) は休みです)

場 所 : 環境省 きんき環境館

大阪府中央区大手前1-7-31 OMMビル5F
(京阪電鉄「天満橋駅」又は地下鉄谷町線「天満橋駅」下車すぐ)

主 催 : 環境省近畿地区環境対策調査官事務所、環境省 きんき環境館

参加団体 : きんき環境館パートナーシップ団体

ふるしき研究会
(特活) 総合教育研究所
(特活) とよなか市民環境会議アジェンダ21
(特活) 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
(特活) 里山倶楽部
(特活) リサイクル活動機構かどま
せいわエコ・サポーターズクラブ

大阪府環境農林水産部循環型社会推進室(以上、順不同)

お問合せ : 環境省 きんき環境館

TEL 06-6940-2001 FAX 06-6940-2022

E-Mail office@kankyokan.jp ホームページ <http://www.kankyokan.jp>



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



古紙配合率100%再生紙を使用しています



巻末資料3 エコライフフェア会計

広報業務				
項目	内容	費目	金額	明細
1. 広報物作成	チラシ印刷	印刷製本費	5,533	紙代 3500 枚分
2. 広報物配布	チラシ郵送	通信運搬費	1,630	@110×13 通+@200×1 通
	チラシ設置	交通費	850	
小 計			8,013	
参加団体謝金				
項目	内容	費目	金額	明細
団体出展	イベント謝金	謝金	40,000	@10,000×4 団体
	出展準備	パネル制作費	119,000	@17,000×7 団体
小 計			159,000	
会場設営費				
項目	内容	費目	金額	明細
会場設営	室内掲示	印刷製本費	4,300	A1×2 枚、7m 出力
小 計			4,300	
計			171,313	
一般管理費			19,164	
合 計			190,477	
消費税及び地方消費税の額	合計×5%		9,523	
総 合 計			200,000	